

## エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG175	科目名	歌が照らす人と社会		科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)					
開講日程・時限	夏期集中8月27日、28日、29日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位	
備考						
授業の目標	昭和から令和までの歌謡曲、J-pop など流行歌を題材とし、それらが照らす時代状況や人模様を読みとぎ、ヤングからシニアにかけての音楽文化について考察することが、本授業の目標です。					
授業の内容	私たちは、幼少期には童謡、学童期には唱歌、クラシック、青年期には歌謡曲、フォーク、洋楽、演歌など多くの音・歌にふれます。音楽は時代状況が反映された文化のひとつであり、聴くひとの記憶としても保持されます。授業では、多くの歌を一緒に聴き、それぞれの「記憶の扉」を開け、時代と社会を考察します。キーワードは「メモリー・スケープ」です。					
授業計画	<p>第1日 第1回 歌と社会史：時代の記憶・歌と「メモリースケープ」</p> <p>第2回 戦前・戦中・戦後の歌謡、ジャズブーム、望郷・都会調歌謡</p> <p>第3回 ビートルズ来日とGSブーム、日本のロック</p> <p>第4回 フォーク、ニューミュージック、アイドル歌謡</p> <p>第5回 J-POP、テクノ、ワールドミュージック</p> <p>第2日 第6回 広告・CMソングと時代</p> <p>第7回 洋楽ヒット・チャートの受容</p> <p>第8回 シティーポップ(1) グローバルな音楽シーンの受容</p> <p>第9回 シティーポップ(2) 日本歌謡の再帰的展開</p> <p>第10回 ラップと日本語の表現文化(1) 「4拍子文化論」と日本のうた</p> <p>第3日 第11回 ラップと日本語の表現文化(2) リズムと音韻</p> <p>第12回 演歌と日本のこころ(1)：演歌、艶歌、ムード歌謡</p> <p>第13回 演歌と日本のこころ(2)：八代亜紀、北島三郎ほか</p> <p>第14回 まとめ：「私のこの1曲」からみる人と社会と時代</p>					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書						
上記教科書以外の参考図書	北中正和、2003、『増補にほんのうた 戦後歌謡曲史』、平凡社、1,430円(税込)。 田家秀樹、2004、『読む J-POP 1945-2004』、朝日新聞社、740円(税込)。 高護、2011、『歌謡曲 時代を彩った歌たち』、岩波新書、880円(税込)。					
その他(HP等)						